



ムラキ MRA超硬バー

豊富なラインアップを誇る

微細なワークや複雑な3次元形状のばり取

り工程において最も重要な役割を担う先端ツールの超硬バー。ムラキ

(東京都中央区)の超硬バーは長年にわたる実績と経験、そして業界トップクラスのラインアップで、多くのものづくり現場で活用されている。

超硬バーは対象とな

るワークの形状や材質、要求される仕上げ面などによって先端へッッド形状および刃付け形状、サイズが異なり、アイテム数は幾種類にもおよぶ。ばり取り作業では、ヘッド先端部が平面の「タイプ1」や、円錐形状の「タイプ5」、先端部がや丸みを帯びた「タイプ7」、球状の「タイプ8」などが多用されている。

ムラキのMRA超硬バーシリーズは、高精度な刃先形状と豊富な品揃えが高く評価されるだけでなく、自動化・ロボット化向けの刃径交差(±0.025)の超硬バーを製造できる高度な技術力が強み。「(ばり取り作業も)今後ますます自動化・ロボット化が進展される中、当社超硬バーも将来的にはより厳格な刃径交差を標準化することも、ワーク形状や材質などにマッチした豊富なラインアップという強みを、さらに高めていきたい」という。

エアクラインダなどのハンドツールに装着して使用するケースの多いばり取り作業だが、近年、作業者不足や職人の高齢化などに伴って、自動化・ロボット化が進んでいる。もとより自動化工が進行しているため、超硬バーの刃径交差は大きめに製造されているが、マシニング1まで。

問い合わせは、電話
03-3273-7511